

2023年8月28日
株式会社エヌジェイホールディングス

2023年6月期決算説明会 主な質疑応答の要旨

質問1. 黒字転換の目処は、どの程度立っているのでしょうか？

2023年6月期は、第2四半期決算で業績予想を修正し営業利益が僅かになるなか、第4四半期に複数の開発案件の中止が発生したため、黒字を維持するバッファもなく、期中にリカバリーをすることもできなかった。事業環境が急速に変わるなか、損失リスクへの予測と対処が遅れたことが要因としてある。現進行期は、見通しの把握を強化している。審議の長期化や案件の中止など損失リスクの発生が見込まれる場合は、早期に判断して、営業案件を積み増したり、多少利益率が下がってもグループ内の他の案件機会を拾っていくなど、リカバリー策を打っていく。

質問2. 2024年6月期の2億円の営業利益の業績予想が、下方修正なく予想水準を達成することを示す前期との状況の違いは何でしょうか？

まず、早めに対策を取れるように状況把握体制を強化したこと。これにより先行き把握力が1か月程度改善していると実感している。次に、営業体制を変更したこと。これまでは、もっぱら各社個別で営業しており、プロジェクトの責任者が兼務していた。今期から営業専任の責任者をグループにおいて、グループ全体の案件状況や稼働状況を把握して、営業ができるようにした。コントロールできない中止や受注時期のズレなどにより、一定避けられない損失の発生は起こりえるが、個別では対応できなかった機会をグループ全体で協力して拾ってリカバリーするなどし、損失幅は低減できると考えている。

質問3. コントロールできない理由による中止やパブリッシャーへの依存を減らすために、新たな事業戦略を導入する予定はありますか？

周辺事業への展開にはなるが、ゲーム事業では様々なツールを使って業務を行っており、自社利用ツールも作っているため、その中から外部に提供すると喜ばれそうなものについて、プロダクト化や他業種へのサービス提供に取り組んでいく。これにより、開発案件の損失リスクに影響されない安定的な収益源を獲得し、拡大していきたいと考えている。

(注) 当資料の業績見通しは、当社が現時点で入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、実際の業績は見通しと異なる可能性があります。